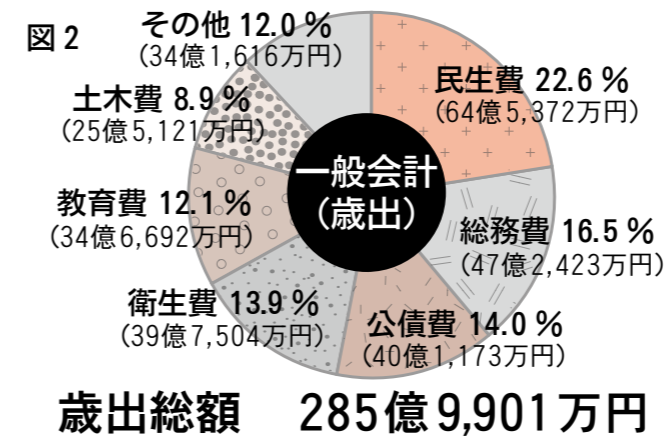
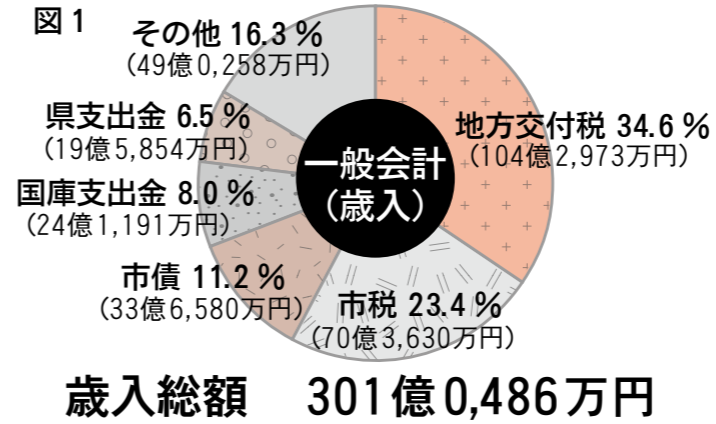


# 歳出総額は485億円

平成23年度の市の決算が確定し、9月の市議会定例会で認定されました。決算は、1年間にどのくらいお金が入り(歳入)、どのように使った(歳出)かをとりまとめたもの。決算をすることで、市の財政状況の分析ができます。一般会計に特別会計と企業会計を合わせた市の歳入総額は、500億9854万円。歳出総額は484億6467万円。歳入と歳出の差し引き額は、16億3387万円の黒字となりました。今回は、決算の概要についてお知らせします。

□問い合わせ 財務課財政係(内線352)

## ◆一般会計



### 一般会計の決算状況

一般会計の歳入歳出差引額は、15億0585万円で、平成24年度へ予算を繰越した事業のための財源1億0261万円を差し引いた実質収支額は、14億0324万円の黒字です。歳入では、地方交付税が104億2973万円で歳入総額の34.6%を占め、市税が70億3630万円(23.4%)、借金の市債は33億6580万円(11.2%)でした。その他、市の事業に対する国や県からの補助金として、国庫支出金が24億1191万円(8.0%)、県支出金が19億5854万円(6.5%)の収入がありました。

歳出では、高齢者福祉や障がい者福祉、生活保護などの福祉事業、保育所の運営、子育てのための手当への支給などの民生費が64億5372万円で歳出総額の22.6%でした。職員管理や地域活性化事業などを含む総務費は、47億2423万円(16.5%)、予防接種などの健康事業や廃棄物処理の経費などを含む衛生費は、39億7504万円(13.9%)、学校施設などの整備を行った教育費は、34億6692万円(12.1%)、土木費25億5121万円(8.9%)、となっております。

また借金の返済となる公債費は、40億1173万円と歳出総額の14.0%を占めました。



▲地域材を使った木造平屋建ての明智保育園を整備

## ◆企業会計

### 水道事業会計

□事業概要  
給水件数: 10,922件  
総配水量: 4,297,581立方メートル

収益的収支決算		資本的収支決算	
収入	8億6,255万円	収入	1億4,041万円
支出	7億5,507万円	支出	3億8,520万円

### 病院事業会計

□市立恵那病院  
外来患者数: 69,462人

□国保上矢作病院  
外来患者数: 28,856人

収益的収支決算		資本的収支決算	
収入	37億8,741万円	収入	1億3,741万円
支出	37億0,828万円	支出	1億7,013万円

### 介護老人保健施設事業会計

□事業別利用者数  
入所事業: 32,172人  
短期入所事業: 2,070人

収益的収支決算		資本的収支決算	
収入	4億7,174万円	収入	2,156万円
支出	4億9,386万円	支出	3,587万円

### 国民健康保険診療所事業会計

□6診療所  
外来患者数: 47,133人

収益的収支決算		資本的収支決算	
収入	6億3,625万円	収入	2,667万円
支出	6億0,912万円	支出	2,885万円

### 介護老人福祉施設事業会計

□事業別利用者数  
入所事業: 20,840人  
短期入所事業: 3,381人

収益的収支決算		資本的収支決算	
収入	3億8,383万円	収入	1,988万円
支出	4億0,291万円	支出	1,944万円

一般会計に属する基金		126億7,390万円	
地域振興基金	28億3,669万円	財政調整基金	28億0,454万円
病院施設等整備基金	20億円	公共施設整備基金	15億0,350万円
減債基金	10億2,113万円	地域福祉基金	9億8,320万円
市民のまちづくり基金	5億2,094万円	地域づくり基金	1億6,445万円
図書館基金	5,721万円	過疎地域自立促進基金	5,398万円
その他	7億2,826万円		



▲資源ごみ回収拠点施設ふれあいエコプラザの整備でリサイクルを推進

## ◆特別会計

特別会計	歳入	歳出	歳入歳出決算差引額
国民健康保険	54億9,923万円	53億9,281万円	1億0,642万円
介護保険(事業勘定)	48億1,638万円	46億9,983万円	1億1,655万円
(サービス事業勘定)	3,650万円	3,650万円	0万円
簡易水道	8億5,746万円	8億5,695万円	51万円
農業集落排水	2億9,102万円	2億9,089万円	13万円
駐車場	3,653万円	3,317万円	336万円
公共下水道	13億8,029万円	13億7,096万円	933万円
遠山財産区	808万円	754万円	54万円
上財産区	228万円	188万円	40万円
後期高齢者医療	5億7,820万円	5億6,640万円	1,180万円
計	135億0,597万円	132億5,693万円	2億4,904万円

●貯金は市民1人当たり約27万円  
市の貯金の総額は149億2121万円で、昨年度と比べて20億0818万円の増額となりました。

### 貯金(基金)の状況

#### ◆市債

市債の現在高	563億9,803万円
一般会計	372億9,038万円
特別会計	154億1,354万円
企業会計	36億9,411万円

●市民1人に、約104万円の借入金  
一般会計、特別会計、企業会計の借金の総額は563億9803万円で、昨年度と比べて9億6380万円の減額となりました。借金を市民一人当たり103万5263円とあります。(平成24年3月31日現在の人口5万4477人)

### 借金(市債)の状況

### 近隣市との比較

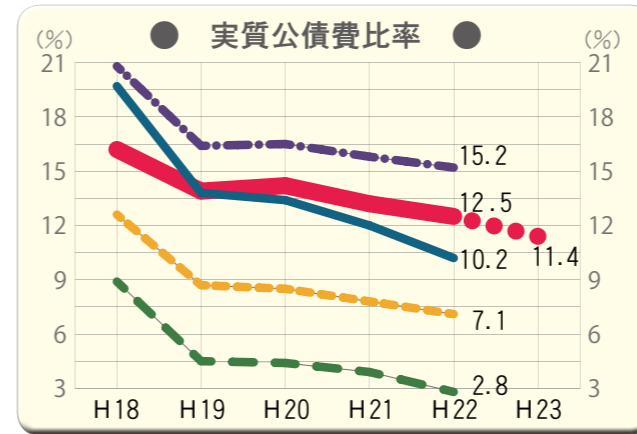
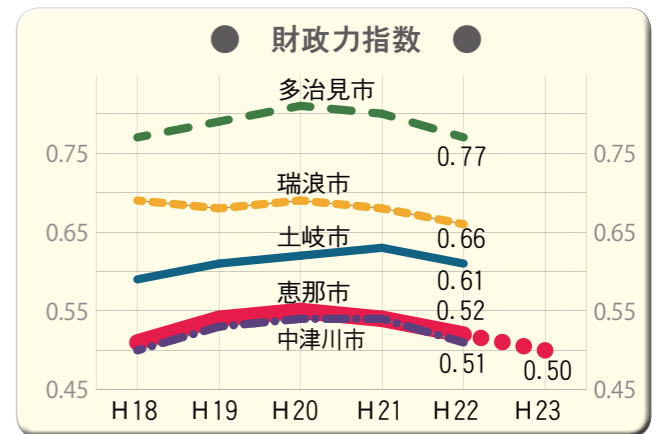
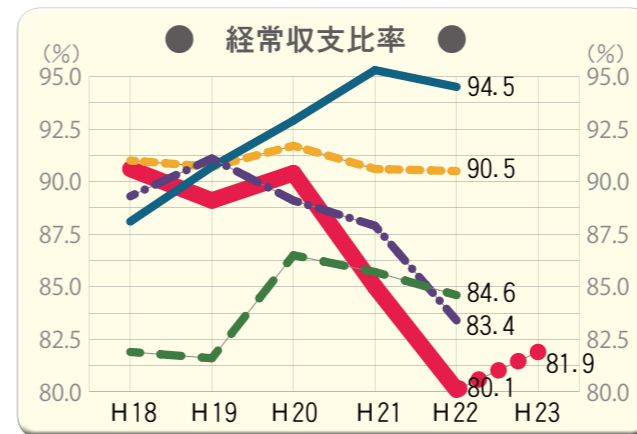
本市の財政状況を客観的に確認できるように、東濃地域の各市と比較しました。本市の主な財政状況の過去6年間の推移と、東濃地域の各市は、平成22年度までの過去5年間の財政状況を、次ページのグラフで示しています。

#### ◆基金

特別会計に属する基金		8億3,188万円	
国民健康保険給付基金	5億3,527万円	国民健康保険給付基金	5億3,527万円
駐車場施設整備基金	2億4,759万円	駐車場施設整備基金	2億4,759万円
農業集落排水基金	1,324万円	農業集落排水基金	1,324万円
その他	3,578万円	その他	3,578万円
企業会計に属する基金		1億3,813万円	
積立金(水道事業)	6,000万円	積立金(水道事業)	6,000万円
積立金(介護老人福祉施設)	5,583万円	積立金(介護老人福祉施設)	5,583万円
その他	2,230万円	その他	2,230万円
定額の資金を運用する基金		12億7,730万円	
土地開発基金	9億7,076万円	土地開発基金	9億7,076万円
奨学資金貸与基金	2億6,747万円	奨学資金貸与基金	2億6,747万円
その他	3,907万円	その他	3,907万円

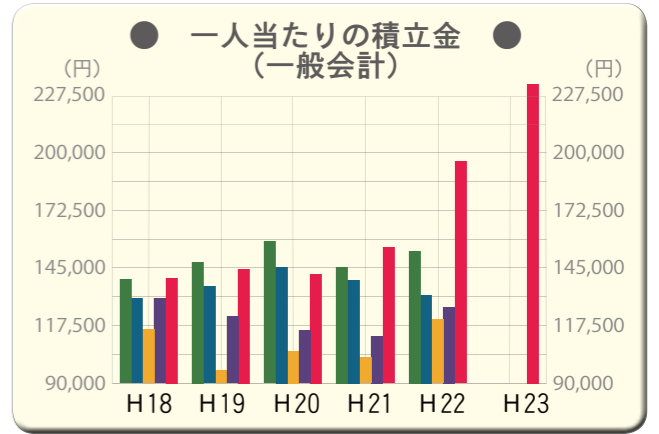
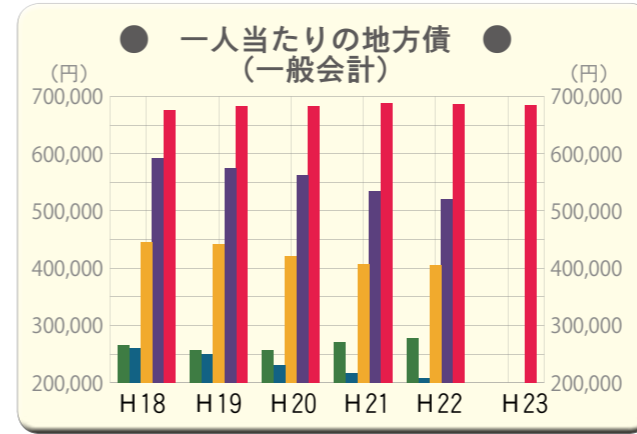
99円ある状況です。市民一人当たりの貯金が27万38

## 多治見市・土岐市・瑞浪市・中津川市・恵那市の財政状況の比較



**用語の説明**

- ▶ 財政力指数＝標準的な行政サービスを行うのに自己財源でどの程度を賄えるかを示す数値で、1.00に満たない分は地方交付税で補てんされることになる。
- ▶ 経常収支比率＝毎年定期的に入る収入に対して、毎年使い道が決まっている経費がどの程度かを示す数値。この割合が低いほど自由に使える財源が多くあることを示す。
- ▶ 実質公債費比率＝標準財政規模に対して市が負担する借金の返済がどの程度かを示す割合を示す。
- ▶ 一人当たりの地方債＝一般会計の市債を人口で割った金額
- ▶ 一人当たりの積立金＝一般会計の基金を人口で割った金額



指標名	恵那市の数値		早期健全化基準	財政再生基準
	実質赤字比率	連結実質赤字比率		
健全化判断比率	—	—	12.59%	20.00%
	11.4%	—	17.59%	35.00%
	51.4%	—	25.0%	35.0%
	—	—	350.00%	—

※実質赤字比率と連結実質赤字比率は黒字の場合「-」で表します

指標名	会計名		恵那市の数値	経営健全化基準
	水道事業会計	病院事業会計		
資金不足比率	水道事業会計	病院事業会計	—	20.0%
	介護老人保健施設事業会計	国民健康保険診療所事業会計	—	20.0%
	簡易水道事業特別会計	農業集落排水事業特別会計	—	20.0%
	公共下水道事業特別会計	—	—	20.0%
	—	—	—	20.0%
	—	—	—	20.0%

※資金不足がない場合「-」で表します

**財政健全度の状況**

平成20年4月1日に一部施行された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、算定と公表が義務付けられた実質赤字比率や連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の四つの指標の健全化判断比率と、公営企業会計の資金不足比率は次の通りです。実質公債費比率は1:1ポイント、将来負担比率は20:3ポイントと、それぞれ昨年度から改善しました。

### バランスシートの概要

バランスシートは、市の資産とその資産をどのような財源(負債、純資産)で賄ってきたかを示したものです。

一般会計における市の総資産は、約1460億円。道路や公共施設などを整備するために発行する地方債などの負債総額は、約435億円。現在までの世代が税金を支払って、すでに整備された純資産は、約1025億円となります。また市民1人当たりに換算すると、資産は約268万円で、負債が約80万円、純資産が約188万円となります。

### 行政コスト計算書の概要

1年間の行政活動のうち、福祉サービスやごみの収集に係る経費など、資産形成につながらない行政サービスに伴う支出と、使用料や手数料などの収入を示したものが行政コスト計算書。企業会計でいわれる損益計算書に相当するものです。

資産形成につながらない行政サービス提供に掛かった費用は、約228億円、使用料など受益者が負担した約8億円を除くと、純粋な行政コストは約221億円となります。これを市民1人当たりに換算すると、約41万円の費用が掛かったこととなります。

### バランスシート

資産の部	金額	負債の部	金額
公共資産 学校や道路の建設、土地購入などに使われたお金の総額(うち未使用資産)	1,264億7,500万円 (9億4,100万円)	固定負債 翌々年度以降に支払いや返済が行われる予定のもの	395億0,400万円
投資など 関係団体への出資金や公共施設整備ほかに蓄えているお金	141億8,000万円	流動負債 翌年度に支払いや返済をするもの	40億3,800万円
流動資産 現金や貯金、必要などときに現金化することができる積立金、市税などの未収金(うち歳計現金)	53億9,300万円 (15億0,600万円)	合計	435億4,200万円
資産合計	1,460億4,800万円	純資産の部	金額
		国と県からの補助金	226億3,700万円
		一般財源などの自主財源	798億6,900万円
		合計	1,025億0,600万円
		負債及び純資産合計	1,460億4,800万円

### 純資産変動計算書の概要

項目	金額
期首純資産残高	1,005億9,500万円
(純経常行政コスト)	△220億6,400万円
(一般財源)	196億2,100万円
(補助金)	43億9,100万円
(臨時損益など)	△3,700万円
期末純資産残高	1,025億0,600万円

### 資金収支計算書の概要

項目	金額
期首歳計現金残高	18億3,500万円
(経常的収支)	79億5,000万円
(公共資産整備収支)	△22億0,300万円
(投資・財務的収支)	△60億7,600万円
期末歳計現金残高	15億0,600万円

### 行政コスト計算書

経常行政コスト	金額
人にかかるコスト 人件費、退職給与引当金など	46億9,200万円
物に係るコスト 電気料、修理など維持補修費など	90億5,300万円
移転支的コスト 高齢者や児童などへの手当(扶助費)、団体への補助金、特別会計への操出金など	83億6,200万円
その他コスト 市債の利子、時効により納入されなかった税金(不納欠損)など	7億3,900万円
合計	228億4,600万円
経常収益	金額
使用料・手数料	6億5,800万円
分担金・負担金・寄付金など	1億2,400万円
合計	7億8,200万円
(差し引き) 純経常行政コスト	220億6,400万円

支では、約61億円の赤字となっています。これらには、経常的収支、すなわち一般財源で賄われていることが分かります。

なっています。これに対して公共事業に伴う資金の使途と、財源を示す公共資産整備収支では約22億円、投資活動や借入返済による資金収支を示す投資・財務的収支

純資産変動計算書は、バランスシートの純資産(資産と負債の差額)が1年間にどのように増減したかを示したものです。

平成23年度末の純資産残高は約1025億円となり昨年度末と比べ

て約19億円の増加となります。

資金収支計算書の概要

性質の異なる3つの区分に分けて、1年間の現金の流れを示したものが、資金収支計算書です。

日常の行政活動サービスに係る資金の経常的な収支は、約80億円と

決算概要の詳細は、市のウェブサイト (<http://www.city.ena.lg.jp/>) で閲覧できます。